

# 岡山県瀬戸内市

## ふるさと納税を活用した財源の確保と地元農産物の調達



### 《概要》

所在地  
岡山県瀬戸内市

運営主体  
瀬戸内市

1日調理量  
3900食

年間提供日数  
約200日

主な地産地消品目  
米、野菜、果物

概要URL:<https://www.city.setouchi.lg.jp/site/furusato/129390.html>

瀬戸内市では、市内の公立保育園・こども園6園、幼稚園4園、小学校9校、中学校3校で給食を提供しています。この地域では、ふるさと納税制度を活用した「食のしあわせプロジェクト」を行うなど、給食の地産地消率100%を目指した取り組みを行っています。今回は瀬戸内市産業建設部産業振興課、邑久・牛窓学校給食調理場所長、栄養教諭、中間団体（集荷組織）の構成員である備前福岡の市圏地産地消推進協議会の皆さんにふるさと納税による学校給食ならではの地産地消への取り組み方や地産地消に組み始めたきっかけ、困難だったこと、今後の展望等についてお聞きしました。

備前福岡の市圏地産地消推進協議会

大倉 さん、山崎 さん

備前福岡の市圏地産地消推進協議会のメンバーとして、学校・園給食への地産地消の納品に当たり集荷や仕分け、配送を行っています。



### 瀬戸内市の地産地消について

●学校給食における地場産物の利用促進にはどのような経緯があったのでしょうか。

瀬戸内市は温暖な気候と日照時間の長さから、重量野菜（キャベツ、白菜、冬瓜等）、米、麦、ぶどうの栽培、カキの養殖が盛んですが、これまで学校給食にそれらの農林水産物が使用されていなかったため、地元農家が中心となって地産地消推進協議会を組織し、平成26年度から農林水産省の補助事業を活用するなど瀬戸内市産の食材を学校給食に利用する実証事業に取り組みました。その後も市や国の補助金を活用しながら中間団体が農産物を調達し、市内の八百屋が調理場に納品する体制を構築しました。

令和4年10月からは、市がふるさと納税を活用した「食のしあわせプロジェクト」で地場産物の調達を推進しています。

●実際にはどのくらい地産地消が進んでいるのでしょうか。

「食のしあわせプロジェクト」に取り組むことで給食に使用した野菜のうち瀬戸内市産の割合は重量ベースで令和3年度（6.1%）から令和6年度（23.2%）に増加しました。

### ふるさと納税で地産地消100%の給食を目指して

●ふるさと納税で集まった寄附金等はどう活用されているのでしょうか。

個人版・企業版ふるさと納税で集まった寄附金は、令和5年度から市が給食用に使用する地場産品の買い上げに使用しています。加えて、地元農家の農産物は中間団体が集荷や仕分け、配送を行っているため、その際に発生する手数料も寄附金で支払っています。また、令和7年度には給食費の無償化を行うことができました。さらに、企業版ふるさと納税で現物寄附いただいた地場産物やそれを使った加工品などを学校給食に使用しています。令和6年度は、米や乾燥きくらげ、こんにゃく、ヨーグルトの寄附があり、中でも米は毎年現物寄附により給食に必要な量を全て賅うことができています。

●企業版ふるさと納税の納税額を確保するために工夫されていることはありますか。

本社が市外にある事業者に対して、市長が意見交換などの際に「食のしあわせプロジェクト」のPRを行っています。こうすることで多くの事業者さまから御理解いただき寄附金を集めることができています。

●その他に「食のしあわせプロジェクト」内で地産地消100%の給食を目指した取組はありますか。

3つの取組を行っています。

1つ目は、給食の野菜全てを瀬戸内市産で賄った「瀬戸内市産野菜100%給食DAY」を年3回程度実施しています。子どもたちに瀬戸内市産の野菜を知ってもらい、美味しく味わう経験をしてもらっています。この取組を通して生産者と栄養士、栄養教諭の連携が強化されました。

2つ目は、生産者・学校園給食調理実務者の打ち合わせです。この取組は中間団体事務局主催で年3回行われており、実務者である生産者や栄養士等が集まり、地場産食材の使用状況や供給見通しについて共有し、より給食への使用につながるよう検討しています。また、野菜の品目、品種、規格等についての意見交換もしています。

3つ目は、農業体験や出前授業です。小学生や園児が生産者たちと交流しながら昔ながらの田植えや芋ほり等の農業体験を行うほか、地場産小麦を使ったうどん作りや、生産者が市内の小学校や園を給食時間に訪れて、食に関わる地域の人々を伝える紙芝居などを行う食育にも取り組んでいます。

●環境保全に配慮した野菜の使用も推進されているとのことですが。

市は環境保全型農業で作られた野菜※を給食に納入する生産者に対し、市場の価格の1.5倍の金額になるよう支援しています。

※環境保全型農業直接支払交付金支援対象取組による農産物…特別栽培農産物（県の慣行レベルよりも化学肥料・農薬を5割抑える）または有機農業により栽培された農産物



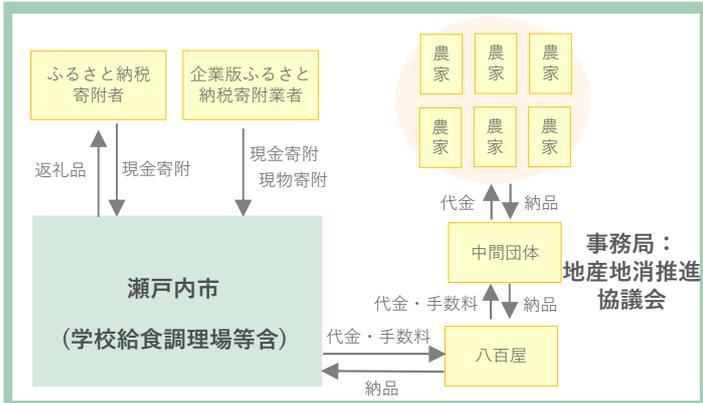
地元で生産された大根葉、人参、キャベツ、白菜、小松菜、ほうれん草、ねぎ、さつまいも、米、みそを使っています。

生産者らによる紙芝居

食べ物に関わっている人たちに会う旅に出かける紙芝居です。

●仕入れ先等様々な関係者が出てきましたが、それぞれの関係性について教えてください。

関係図



中間団体が地場産物の集荷、仕分け、配送を行う手数料にふるさと納税の寄附金を当てられるようになったことで、農家の負担を減らすことができます。また、現物寄附により、地場農産物の利用が進められています。

●プロジェクトが始動するまでの期間でどこが一番大変でしたか。

市が主体となる前の平成30年頃は、中間団体が全ての調整事務を行わざるを得なかったため、毎日が大変でした。また、中間団体に給食等の納品に業務のノウハウがなかったため、発注ミスなどで給食が提供できない事態にならないか不安がありました。

慣れた今でも穴をあけてはいけないプレッシャーを感じています。

●ふるさと納税を活用した「食のしあわせプロジェクト」を行い、どのようなメリットがありましたか。

市が主体となることで、中間団体が有志で集荷や仕分け、配送を行っていた時よりも信頼性が上がり、責任感も高まりました。ふるさと納税で寄附を行っている企業も給食だよりへの掲載や消費者（園児等）との交流の場ができ知名度アップにつながっています。

今後の展望

●今後の展望について教えてください。

市としては、持続可能なプロジェクト活動となるよう、今後も全国へ瀬戸内市のふるさと納税のPRを行っていきます。

中間団体としても、自慢できる活動なので続けて取り組んでいきたいと思っています。

食レポ

ふるさとの味給食



〈献立〉  
 麦ごはん、牛乳、マーボー冬瓜、焼きぎょうざ、中華あえ  
 〈使用している地場産物〉  
 米(朝日)、冬瓜、小松菜、たまねぎ、葉ねぎ

児童の感想

この日は栄養教諭が小学校2年生の教室に訪問しました。「冬瓜って知っているかな？」と声をかけると箸でつまんで「これでしょ？」と答える児童が多数！冬瓜の実物大を知らなかった児童はその大きさに驚いていました。みんな、口々に「美味しい～」と言って食べていました。